

授業科目	建築設計デザインⅡ（空間デザインコース）			建築学科	
	Architectural Planning and Design II			科目コード	4618
単 位	選択必修 2 単位	科目区分	専門教育科目	学年・開設期	3 年前期
担当教員	佐藤 孝 教授 非常勤教員 堀尾 浩 灘本 幸子				

授業の概要および計画

1. 授業の目的

建築デザインコースの学生はデザインコース指定科目「建築設計デザイン」を履修する。この「建築設計デザイン」では課題設計演習に加えて、自らの設計の理論背景となる講義を並行して行う。

2 年後期「建築設計デザインⅠ」では「計画と設計」をテーマとし、周辺環境を読み取りつつ諸要素を建築計画、設計と関連づける能力を養う。3 年前期「建築設計デザインⅡ」では「個と全体、集合」をテーマとし、「人・モノ・場」と社会を内包する人間環境と建築空間の設計をおこなう。3 年後期「建築設計デザインⅢ」では設計演習の最終課程として、計画、設計行為の総合化、コンセプトと空間イメージの展開を「複合」をテーマとし、演練する。

2. 授業の方法

演習の課題は、「集合住宅」と「学校建築」を題材とし、エスキスチェックをとまなう演習を行なう。建築計画Ⅱの講義授業と連動し、設計デザイン演習を平行して行う。

A2 ロールトレーシングペーパーをエスキス用紙として指定する。トレペ以外の紙でのエスキス・チェックは受けられない。プレゼンテーションでは自分の意見を堂々と発表する。

3. 授業計画

第 1 週 演習のガイダンスと第 1 課題「集合住宅」の解説。

【宿題：敷地調査、敷地図 1:200,1:500 をトレペに作成。敷地調査と報告シート作成】

第 2 週 敷地／周辺環境の調査。場のコンテクストの読み取りと初期イメージの発表。

【予習：+α 空間や共有空間を含む空間構成と企画を模式図等表現】

第 3 週 企画提案：コンテンツ（施設内容）の構想と配置、平面計画

【予習：集住の企画と配置計画と個のヴォリューム】

第 4 週 エスキス：（重要）ボリューム模型＋配置平面エスキス

【予習：集合の考え方と平面、断面計画】

第 5 週 エスキス：空間化。配置平面と断面の設計図チェック

【予習：自分の計画、空間のコンセプトは何か。再考】

第 6 週 エスキス：設計のステップアップとプレゼンテーション図面のエスキス

【予習：提出作品の完成。図面、模型などの制作】

第 7 週 第 1 課題の提出。発表と講評 1。第 2 課題「学校建築」の解説。

【講評会では自らの作品を堂々と明快に発表する】

第 8 週 発表と講評 2。

【予習：コンテンツ（施設内容）の構想と「学校の日」を考える】

第 9 週 企画提案：コンテンツ（施設内容）と初期構想

【予習：学校の機能関連図、機能ブロック、ゾーンの再編】

第 10 週 エスキス：ゾーン、ブロックの再編と配置平面計画

【予習：平面図、断面図作業】

第 11 週 エスキス：平面、断面計画

【予習：平面立面断面、図面の確定】

第 12 週 エスキス：全体平面と断面の図面中間提出と簡単なボリュームのスタディ模型

【予習：プレゼンテーション図面の準備】

第 13 週 エスキス：設計のステップアップとプレゼンテーション図面のエスキス

【予習：提出作品の完成。図面、模型などの制作】

第 14 週 第 2 課題の提出。発表と講評

【講評会では自らの作品を堂々と明快に発表する】

第 15 週 総評

■教科書：なし

科目区分 科目分類 注意事項	専門教育科目－空間デザインコース (3年次前期開講の「建築設計演習Ⅳ」との選択必修科目)	科目コード	4618
		学年・開設期	3年前期
		成績評価上の区分	専門科目

確実な単位修得・学修の質の保証のために

4. 達成目標

「個と全、集合」をテーマとし、建築計画、構想、コンセプト、空間設計デザイン、プレゼンテーションのレベルを高める。

- ①周辺環境を読み取りつつ、諸要素を建築計画、設計と関連づける能力を養う。
- ②自ら設計コンセプトの立案からイメージスケッチの作成、プランニングの図面表現、イメージの模型表現、設計プレゼンテーションのスキルアップ、講評会での作品発表を行う。

5. 履修に当たっての留意点

A2 ロールトレーシングペーパーをエスキス用紙として指定する(図書館1階紀伊国屋に常備)。トレペ以外の紙でのエスキス・チェックは受けられないことを原則とする。他の人のエスキスや講評を聞き、発表や講評会では自分の意見を堂々と発表する。課題提出の締め切りは厳守すること。作品は将来の就職活動を踏まえ、図面等をファイリングしポートフォリオを作成すること。

6. 試験および成績評価の方法

提出された設計作品と作品発表で評価する。企画書、エスキス内容を含め課題毎に評価するが、合否は総合評価でおこなう。締め切り厳守。遅延提出は1週間まで認めるが10点減点。それ以降は作品を受理しない。演習においては、原則として開講数のすべてに出席であること。

具体的には下記表を評価軸として作品の評価を行う。

■評価基準 (●：最重要視、○：重要視)

評価軸 課題	製図法						計画系				構造系		環境系
	製図作図法の理解、図面・作品の見せ方の修得						動線、ゾーニングの理解	内外部の関係、地域との関係の理解	家具配置生活空間展示空間の理解	条件を考慮したコンセプト構築の理解	部材の成り立ちと空間の理解		換気、採光、断熱の理解
線の種類の理解	線の太さの種類理解	線の末端の理解	文字・寸法の書き方の理解	図法の理解	プレゼンテーションの方法	構造式・工式・形式の理解					材料色の理解		
A.Gの設計	○	○	○	○	○	●	●	●	●	●	●	●	●
C.Hの設計	○	○	○	○	○	●	●	●	●	●	●	●	●

また上記評価軸のそれぞれに対して設定した評価対象能力は、次のとおりである。

評価対象能力	評価手段配点比率			対象能力別配点
	提出課題	中間試験	期末定期試験	
知識力	40	—	—	40点
応用力	60	—	—	60点
展開力	+10	—	—	+10点
計	100点+10点	0点	0点	合計100点+10点

「対象能力別配点」には多少の変動がある。

【知識力】

「個々の知識/スキルの量と正確性」－設計デザインにおける様々な個別の知識を理解しているか。

「知識体系の獲得度」－設計に関わる各技術分野の概要を理解し、個別知識間の関係を把握したか。

【応用力】

「解析力」－エスキス中心の授業を通して、建築空間をデザインし、その空間を図面等で表現できるか。

「実践力」－設計に関する種々の知識とイメージを、具体的な形態に展開し自分の建築を創出できるか。

「構成力」－課題に対し自分の考え、視点を自ら選択し、与えられた課題の趣旨に応え、どのように自らの建築空間を創出できるか。

【展開力】－授業で説明のなかったかなり高度な問題に対して、得られた知識を展開できるか。

■参考書：①コンパクト建築設計資料集成 日本建築学会編 丸善

②建築の雑誌 (GA JAPAN、新建築、A+U、日経アーキテクチャー、CasaBRUTUS など)